



ありがとう、ロータリアン！ ⑧ 出会いが開く、未来



米山学友／セミテクノ(株)社長

チョウ ハクヒ
趙 柏飛さん

出身：中国

奨学期間：2004 - 06

学校名：大阪産業大学大学院

世話クラブ：大東中央R C

私は中国・南京市の出身です。反日感情が強い土地と言われますが、80年代後半には地元紙やテレビで日本の文化が紹介され、日本映画も上映されていました。日本についてもっと知りたいと思った私は、日本語の通信教育を受け、留学を希望していましたが、その夢はなかなか叶いませんでした。

1990年の夏のことです。友人から「日本人らしき男性が、うちの店の前で具合が悪そうにしているのだけど、何を話しているのかわからなくて困っている」と、連絡を受けました。駆けつけてみると、「暑さで体調を崩してしまった」と訴えており、私はすぐに介抱しました。介抱した縁で打ち解けた私たちは、その後2日間、彼の帰国まで親しく交流することになったのです。

しばらくして、手紙が届きました。「助けてくれた恩は忘れない。もし君が留学したいのなら、私が保証人になる」と。こうして、私の日本留学が実現したのです。

実際に会うことが大切

私は大阪産業大学で経済学を学び、修士課程、博士課程へと進学しました。留学中、夏休みを利用し、北海道から沖縄まで自転車で旅をしましたが、道を教えてもらったり、飲み物をもらったり、土地の風習を教えてもらうなど、多くの人との出会いがありました。こうした体験を中国の友人に話し、また、日本の友人を南京に招いて交流の場を設けたことがあります。同じ時間を過ごし、テレビや映画の世界とは違う本当の日本人、中国人と接することで、互いに良い印象を持ってくれたようです。



日本の友人を連れて故郷の南京へ

出会いは宝です。私は博士課程最終学年で米山記念奨学生となりました。研究一筋だった私が、奨学生になったことでロータリーを知り、より深く社会とのつながりを実感できるようになりました。大東中央ロータリークラブの皆さまのおかげです。自分にできることをやってみようと、日本に帰国したばかりの中国残留孤児のため、役所での手続きを手伝ったり、アルバイト先を紹介するなどの支援活動を始めたのも、この頃でした。

石の上にも三年

また、勉学が進むにつれ、私の関心は「日本を知ること」から「アジア共同体」へと移りました。

昨年発生したタイの洪水でも明らかになりましたが、もはやアジア全体が、経済的に切り離すことのできない関係にあり、関係強化が欠かせません。しかし、近いからこそ軋轢も少なくありません。政治レベルでは関与できないことが多いと考えた私は、むしろ経済分野において、日中両国の相互理解・発展のために尽くしたいと思うようになりました。

卒業後、私は起業する道へ進もうと決意しました。未知の分野ながら、半導体、液晶、LEDの製造工場向けに消耗パーツやフィルターを供給する会社を2008年に設立しました。ところが、リーマンショックから世界的経済恐慌となり、仕事らしい仕事がありません。「このままでは、自分だけでなく家族の生活も危険にさらしてしまう」。不安に押しつぶされ、夜も眠れぬ日々でした。

反日感情が強いと言われる土地で、日本への関心を持ち、日本語を学んだ趙柏飛^{テウハクヒ}さん。偶然の出会いから日本留学への道が開け、さらに大学での進学と卒業、その間の体験、起業へと、常に人との出会いに支えられながら歩んできました。「ロータリーを知り、より深く社会とのつながりを実感できるようになった」という趙さん、日本のロータリアンへのお願いと、感謝の気持ちを込めて寄稿してくれました。

そんな時、世話クラブの峠松次さんが「私も戦後、何も無いところから開拓し、困難を乗り越えてやってきた。日本には“石の上にも三年”という言葉があって、真面目に頑張れば必ず報われる。もし困ったことがあれば、私がいるから心配せずに取引をなさい」と言ってくれました。その温かい言葉を胸に、私は中国で営業先を開拓し、少しずつ仕事を増やしていきました。日本でも良い部品調達先が見つかり、半導体以外にも商談が来るなど、峠さんのお話から3年間耐え忍んだ今年は、これまでで一番良い年になりそうです。

クラブへ連絡ができない学友も

日本のロータリアンの皆さまに申し上げたいことがあります。これまでに私は中国で、何人かの米山学友に会いました。全員が必ずしも理想通りの人生を送っているわけではなく、本意ではない仕事をしている人もいました。忙しさに追われ、皆さまへの連絡が疎かになっている学友もいると思います。しかし、彼らは決して、恩を忘れたわけではありません。現実と夢とのギャップの中で、連絡を取りづらい状況にあるのです。

私は、米山記念奨学生にならなければ、今日の自分はいなかったと思っています。卒業後も川西津音夫カウンセラーをはじめ世話クラブの方から励ましと応援をいただいています。奨学生時代のつながりが、大きな力を与

えてくれています。ほとんどの学友が同じ気持ちです。私を含めこれからも夢に向かって進み、胸を張って会いにいけるよう頑張るつもりですので、皆さまもどうか、温かく見守っていただければと思います。



川西津音夫氏から一言

趙君は大変真面目で、「ビジネスよりも教師向きでは？」と何度か言いました。しかし、彼の決意は固く、その後は会員の会社を見学させたり、経営のレクチャーもしました。日本の商習慣にはまだ不案内な面もあり、われわれのバックアップが欠かせません。ただ、中国企業は日本企業との取引に消極的ですが、中国人である彼が設立した会社には信頼が厚いようです。趙君には、ビジネス面で日中の懸け橋になり、両国の長所を伝えてほしい。そういうことができる人物だと信じています。

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または“よねやまだより”についてのご意見を、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。
TEL：03-3434-8681 FAX：03-3578-8281
Eメール：mail@rotary-yoneyama.or.jp

寄付のメリットを活用し、一層のご支援を

ロータリー米山記念奨学会は本年1月4日に公益財団法人へ移行したため、当会へのご寄付は新たに「税額控除」の対象となりました。そのため、来年の確定申告の際には、従来の「所得控除」に加え、「税額控除」のどちらかを選択することができます。税額控除とは、寄付額の約40%の金額が所得税額から控除されるもので、所得控除よりも控除額が大きくなる場合があります。特別寄付金のほか、毎年クラブから会員数分お送りいただく普通寄付金も控除の対象です（クラブからの氏名データ提出が必要）。米山記念奨学事業は日本の全ロータリアンが推進する独自の国際奨学事業です。寄付のメリットをご活用いただき、ご支援をよろしく願います。

送金先：三井住友銀行 京橋支店／普通預金 0920373 /口座名義 公益財団法人ロータリー米山記念奨学会